

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を掲げ、その法人の理念に基づいてホームの事業計画を立てている。また、ホームの理念も掲げており、目的を明確にしている。	法人理念と「お互いに声を掛け合い明るい気持ちで過ごしましょう」他2項目からなるホーム独自の理念がある。職員は毎日の申し送りや、ホーム会議で法人理念を1項目づつ唱和し実践に努めている。リビングの掲示板やキッチンにも張られており来訪者にもわかり易くなっている。今年の経営方針としてノーリフトポリシーに取り組み、入居者の身体能力に合わせた介護技術と介護者の安全・安心の介護を目指している。理念から事業計画、個人の年間目標を記すチャレンジシートへと方針が連鎖している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご家族や地域ボランティアに来所して頂き、ホームの様子を知って頂く機会にしている。また、新聞の発行、HPの更新等を行っている。近所を散歩した際には会話を楽しんでいる。	区費、区社協協力費を払い、ホームに関係するお知らせ・チラシなどを配布して頂いている。短大生や高校生の実習、中学生の体験学習、保育園児との交流も行なわれている。複合施設全体での秋祭りが地区の奉仕団他地域ボランティアの協力で盛大に行われている。同じ町内にある法人の他の複合施設と共に毎月「サンフラワー新聞」を発行し、家族、待機者、町内の福祉関係施設や部署に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出て、認知症予防教室の講師を行うことをしている。また、施設見学や、実習生やボランティアが来所された時には、認知症の症状について、説明を行うようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。ホームでの取り組み等の報告を行い、意見や指導を頂いている。会議の際に出た意見は、職員にも伝えている。	運営推進会議は奇数月の第4木曜日午後7時～8時に定例化されている。出席者は家族、区長、区社協関係者、第三者委員などで、事業報告や法人の経営方針、ノーリフトポリシーや認知症の理解についてなど双方向的な話し合いが行われている。	固定された出席者だけではなく、議題の関係者や町担当者などできるだけ多くの方に関わっていただき、認知症やホームへの理解が更に増幅するような取組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に保険福祉課へ訪問し、こまめに連絡を取り合っている。	被保険者やケアマネージャーの代表などが参加する町の運営協議会に参加している。町の敬老会へ参加したり、文化祭にも入居者の作品を出展している。町からの依頼を受け、経験年数の長いスタッフが認知症予防教室やいきがいディサービス等で介護関係の指導や講演をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の思いを理解し、身体拘束は行っていない。	職員間で話し合い十分理解している。緊急時でスタッフが手薄になる場合以外は玄関の施錠はしていない。言葉での決め付けや目線にも注意し、入居者が選択できるように心がけている。	

グループホーム第2グレイスフル辰野・やまぶきユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	エリア内の各会議の中で学ぶ機会を持っている。現在、自宅や事業所内での虐待のある事実はない状況である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	エリア内の各会議の中で学ぶ機会を持っている。現在制度を活用することが必要な利用者様はいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に、契約書・重要事項説明書により説明を行っている。また、解約については、利用者様・ご家族と十分な話し合いの機会を設けて決定している。退居先についても、一緒に考えさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を重要事項説明書に明記している。毎年、満足度の調査アンケートを実施している。また、利用者様の「つぶやき」を記録しており、その「つぶやき」の内容をサービスの改善につなげている。	殆どの入居者が自分の意見や思いを表出でき、何気ない言葉を綴った「つぶやきの記録」を職員間で共有している。家族の来訪については毎週来られる家族もおり遠方の皆様にも月1回はお願いしている。担当職員は毎月の請求書や「サンフラワー新聞」と共に個々の入居者のホームでの様子を写真に撮り送っている。家族の満足度調査が毎年行なわれており、今年度より年2回実施する予定である。家族との意思疎通を図るため家族会を年2回実施しており、「何時開催するんですか?」と心待ちにしている家族からの問合せもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、毎月のホーム会議にて、各スタッフと活発な意見交換を行っている。	ホーム会議が月1回月末の夕刻に開催され全職員が参加し意見交換がされている。理念や事業計画、ヒヤリハット事例、つぶやき等が報告され、必ず一人一言の発言となっている。個人目標を記述したチャレンジシートなどを基にマネージャーとの個別の面談が半期に一度行われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシート、実績評価表を基に個別面接を行うようにしている。優秀職員個人賞、チーム賞、理事長賞等の表彰制度を取り入れており、各職員の意欲に結びつけられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパースターシートを用いている。スーパースターシートに基づき、各職員がチャレンジする項目を明確にするようにしている。また、定期的に法人内外の研修に参加している。		

グループホーム第2グレイスフル辰野・やまぶきユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	辰野町運営協議会や、介護予防事業を受けている事業所との定期的な情報交換の場を設けて、相互の活動の様子を情報共有することをしており、それをサービスの質につなげるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面接において、家族だけではなく本人にも必ず同席して頂いて、不安や要望もお聞きするようにしている。面接した内容は、フェイスシートに記録すると共に、暫定ケアプランに反映することをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接において、不安や要望等をお聞きするようにしている。面接した内容は、フェイスシートに記録すると共に、暫定ケアプランに反映することをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容からグループホーム以外の利用が適切と判断した場合は、他施設のサービスの概要も説明できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の様子観察を十分に行い、利用者様の立場に立って、その想いを知るようにしている。利用者様が良い表情であったり、嬉しそうなお話があった時は、一緒に喜び合う関係作りができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時等に、利用者様、ご家族、職員がともに話ができる機会を積極的に設けている。ご家族とのケアカンファレンスからの意見を大切にすることをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出に出かける際は、馴染みの場所に出掛けられるようにしている。家族以外の訪問者も、ご家族の承諾を得た上で、受け入れている。	入居前に通っていたふれあいサロンに月に数回出かける入居者がいる。家族と自宅に帰り、本人の好きな物を食べに馴染みの食事処へ出向く入居者もいる。近隣の人や友達の来訪を受ける方も数名いる。ホームの年間レクリエーション計画でも「つぶやき」から聞き取った「食べたい物」の夕食を組み込んでいる。	

グループホーム第2グレイスフル辰野・やまぶきユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士と一緒に活動が行えるよう、近くのテーブルに誘導したりするなど、コミュニケーションが図りやすい環境を作るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も定期的な連絡を通じてご本人の状態を把握し、必要に応じてどのようなサービスが必要か一緒に考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様から〇〇したいといった声を積極的にお聞きするように努めている。利用者様・ご家族の要望は、ケアプランを作成するアセスメント用紙に反映している。	入居者の殆どが自分の思いを表すことができ、ストレートに喜怒哀楽を出す方もいる。職員に対し「お姉さんたちに甘えてはいけねえね…」とか「世話になっているだけでは気がすまない」と率先して居室の掃除をするなど自立心旺盛な入居者もいる。お風呂で1対1になると娘や息子のことをひたすら話す方もおり、職員へ全幅の信頼を寄せていることが垣間見えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に得た情報をフェイスシートにまとめ、全職員で情報共有している。また、入居前にはご家族に「利用者様のプロフィール表」を作成して頂き、今までの生活歴や嗜好などの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様・ご家族の要望は、ケアプランを作成するアセスメント用紙に反映している。定期的にカンファレンス会議を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状況、認知症状の変化の観察に努める他、利用者様との会話、ご家族との情報交換を大切にするようにしてケアプランを作成するようにしている。	職員が2名ほどの入居者を担当しており、本人の思いや家族の意向をふまえたケアプランを計画作成担当者が作成し、担当職員の意見を求め最終決定している。見直しは細かな項目が記載された「ケアチェック・ケアカンファレンス表」を基に3ヶ月に1度実施されている。また業務日誌には「ケアプランチェック欄」があり、毎日が見直しとの考え方で取り組んでおり、全職員が情報を共有できている。状態に変化があった時はその都度計画を作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子を毎日残すようにしている。また、利用者様の表情の変化や、つぶやかれたこと、ひやり・はっとした内容についても記録に残している。		

グループホーム第2グレイスフル辰野・やまぶきユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な場合は、病院受診や、個別外出について、職員が付き添うようにしている。ご本人の居室にご家族が宿泊することもできるようにしてある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方達を施設行事に招いたりすることで、地域との連携を図れるようにしている。無断外出による利用者様の捜索や、災害が起きた場合については、警察、消防署と連携が行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者様のかかりつけ医との連携を図ることをしている。場合によっては、ご家族の承諾を得て、主治医に直接連絡をさせて頂き指示を頂いたり、往診をして頂いている。	入居前のかかりつけ医を継続している。入居者と契約の際、急に変化のあった時の協力医や病院を決めている。かかりつけ医の往診が月2回行われている。併設施設の看護師との連携があり、訪問看護ステーションの看護師による健康チェックも2週に1度行われている。提携している歯科医師による往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所内の看護師や、医療連携体制に基づく訪問看護ステーションの看護師と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はグループホーム内での生活の様子を病院に情報提供している。また、退院時は、各利用者様のかかりつけ医や、協力医療機関である辰野病院からの情報を確認するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期受診の内容を、事業所も把握しているようにしている。利用者様の状態が、治療・療法・看護等を常時必要とする状態になることが考えられる場合は、他のサービスを変更される方が多く、相談にのれるようにしている。	重度化した場合や終末期に向けての指針があり、入居前に家族にも話をし承諾をいただいている。入居者の状態によっては併設の介護付有料老人ホーム(特定施設入居者生活介護)や法人内の他の施設に移ることも出来る。住み替えによる精神的な負担が軽減され安心して介護してもらえるといった家族からの言葉も聞かれる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアル、事故発生時対応マニュアル等のマニュアルを作成して、連絡方法や職員の動きを明確にしている。		

グループホーム第2グレイスフル辰野・やまぶきユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している。	春、秋の年2回、複合施設全体で防災訓練が行われている。職員間の連絡網を使った訓練などミニ訓練も随時実施している。来年3月には夜間想定で地域住民や消防団も交えて行う予定である。複合施設全体が緊急時地域ふれあいマップ上で避難場所となっているので万が一に備え町や地元区と話し合いを行っている。自動火災報知器やスプリンクラーは設置済みで、食料品等の備蓄もある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様へのアプローチに成功した事例、失敗した事例を分析し、利用者様を尊重した声かけが行えるように、定期的に振り返ることにしている。記録についても、破棄する場合は、シュレッターにかけている。	法人のハウスマネージャー会議で各事業所から持ち寄られ検討された「良い声かけ、失敗した声かけ」等のせりふ集を参考に入居者の尊厳についてホーム内で話し合いが行われている。家族対応、排泄、入浴等の際に入居者に何気なくかけた言葉を振り返り職員のレベルアップに繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に選択してもらうことを心掛けて言葉掛けをしている。利用者様を尊重した声かけが行えるように、定期的に振り返ることにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除・洗濯・食事作り・買い物等、その日の利用者様の体調や気分に合わせて参加が行えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人・ご家族の希望を確認して理美容の申込みを行っている。着替えの際には、着たい洋服を選んで頂きサポートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで、利用者様とスタッフが一緒に行っている。また、各利用者様の食べたいものをお聞きし、メニューに反映している。	殆どの入居者が自力で食べることができる。食形態も粗キザミの方が若干名いるが「きざみ表」を作り支援している。入居者の希望でメニューが決まり、誕生日やつぶやきで変更することもある。食後の片付けも2~3人の入居者が「ここに仕事に来ている」と思い、自ら進んで職員のお手伝いをしており、食器洗いから布巾で拭くまで流れ作業で瞬間に終わらせていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握した上で、提供している。職員の中に栄養士の資格者がいる為、定期的にカロリー計算を行っている。		

グループホーム第2グレイスフル辰野・やまぶきユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お声をおかけし、ご本人の出来ることは行って頂いている。歯科医よりの指示がある方については、仕上げ磨きをさせて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のパターンを把握し、その方に合わせたトイレへの声がけ、誘導を行っている。また、定期的なアセスメント・評価を行っており、その内容に基づいて支援している。	パット交換の方が若干名いるが、各自の居室には洗面台とともにトイレがあり殆どの入居者が自立している。毎日の決まった時間のトイレ掃除やさりげない言葉から職員が排便を確認している。チェック表からのトイレ誘導の方もいる。夜間については家族の希望から睡眠を優先しており、2時間毎の巡回の際、起きている方で必要な場合のみ声がけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、水分も促すようにしている。また、定期的に体操を行い、天気の良い日は散歩に出掛けるなどして、便秘予防に努めている。ヨーグルト、バナナ、ヤクルト等食材の工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴への声がけは毎日個別に行っており、ご本人の入りたい日に入れるようにしている。	入居者の殆どが自立している。基本的には一日おきに入浴しているが希望によっては毎日入浴できる。入浴拒否の方には医療的な話をしお誘いしている。菖蒲やりんご、ゆず、みかんの皮などを浮かべ季節の香りを楽しんでいる。併設の特定施設の大きなお風呂に入り温泉気分を味わうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の睡眠・休息状態をアセスメント・評価しており、その内容に基づいて、支援方法を明確にしている。また、疲労の様子が見られた時は、個別に声がけをし、ソファーや居室でゆっくり休めるようにサポートしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をかかり付け医に出してもらっている。その処方箋をカルテに保管して、スタッフ間で情報共有し、適切な内容で服用ができるようにサポートしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きなテレビ番組や新聞が読めるようにしている。また、歌、手芸等、お好きなことに参加して頂けるようにしている。食器洗いや掃除等は利用者様が中心となって実施することで、生活の張りにつながっている。		

グループホーム第2グレイスフル辰野・やまぶきユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、買い物やドライブ、散歩を行っている。毎月のレク担当者による計画を立て、外出、外食、季節毎の行事を行っている。	ホーム内では必要がないが外出時には車椅子が必要な方が約三分の一ほどいる。複合施設の敷地内や周りの散歩、交代でスーパーへ食材の買い物に出掛けたりしている。外出行事としてイチゴ狩り、ぶどう狩り、紅葉狩り、回転寿司等へ出掛けている。冬場はイルミネーションの夜景を楽しみに外出することもある。天気の良い日にはホーム北側の畑や南側のウッドデッキに出て外気に当たることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理のお金の持ち込みは、認知症による管理能力の低下も踏まえ、最小限にして頂いている。ご本人やご家族からの希望が無い場合は、金銭管理の支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルームの電話は、利用者様から希望があればいつでもつながりにしている。また、手紙についても、差出し・受け取りを自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に設置するものを購入する際は、利用者様の馴染みがあるものを購入するようにしている。利用者様が選んだお花や絵を飾るようにしている。利用者様と話し合い、現在ウサギの飼育を行っている。	広い共用空間を真ん中にして周りが入居者の居室となっている。各ユニットは両方のキッチンを境にして開放されており、お互い行き来が自由となっている。ウッドデッキでは「ユウちゃん(石原裕次郎)」・「タツちゃん(梅宮辰夫)」という入居者が名づけたウサギが飼われ、食材のキャベツまで食べさせ可愛がっている。日本認知症グループホーム大会でも過去に動物を飼育していた経験を活かし意欲のある生活に繋げる取り組みとして事例発表がされた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテーブル・椅子、ソファを置いて、お好きな場所でくつろぐことができる環境を整えている。また、庭先のウッドデッキにもイス等を置き、ゆっくり過ごして頂ける場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居契約時やカンファレンスの際に、ご家庭で使い慣れた家具や生活用品を準備して頂くことをお願いしており、各利用者様の生活習慣や好みに合わせた環境に整えている。	各自の居室にはクローゼット、洗面台、トイレが設置されている。居室入り口上部にも戸袋があり収納場所に工夫がされている。壁に掛かった洋服に埃よけ用のタオルを掛けたり、若手男性演歌歌手のプロマイドやカレンダーが所狭しと飾られた居室など、家族の協力を得て入居前の習慣の継続や馴染みの物の持込みに配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等に手すりの設置をしている。また、日々の様子を観察し、改善が必要と思われる所の改善、工夫を行っている。		